

東京新聞 夕刊

お盆の喪服を被災地に

中野の団体が

あす支援行事

東日本大震災後の初

めてのお盆を控え、衣類のリサイクルなどを

手掛ける「日本リ・フ

アッショナ協会」(東

京都中野区)が、身近な人を亡くした被災者

が礼服で弔いができる

よう、被災地に喪服を送ることを計画してい

る。三十一日に新井薬師(同区新井)で開か

れる復興支援イベント

などで、不用となつた喪服を集める。

協会は被災地に衣類

を届ける活動をしてお

り、六月の百か日忌の際、他の被災地支援団

体から「喪服はないか」と打診を受けた。

被災者にも直接尋ねた

ところ、「必需品では

ないので、ほしいとは

言いくらいが、あれば

ありがたい」との声を

聞いた。鈴木純子代表

理事(四五)は「できれ

ば、八月のお盆には、

尽くしたい気持ちを実

現させてあげたい」

と、七月からホームペ

ージなどで呼び掛け始めた。

同協会が借りている

既に女性用を中心

約百着を集めだが、希

倉庫=〒960-82

原四六の一、日本リ・

ファッショナ協会=へ

望者はもつといふとみられることがから、鈴木

代表理事が実行委員を務める三十日の復興

支援イベント「縁が輪市」でも、提供を受け

付けることにした。男

性用も募り、「大きな

サイズや、黒いストッ

キング、黒いバッグも

集めたい」と話す。集

めた喪服はクリーニン

グをして、福島、宮城

県の避難所や福祉施設

に届ける。



の郵送も受け付ける
せは協会=電03(59)
が、郵送費は送り主の
42)3028へ。
(松村裕子)